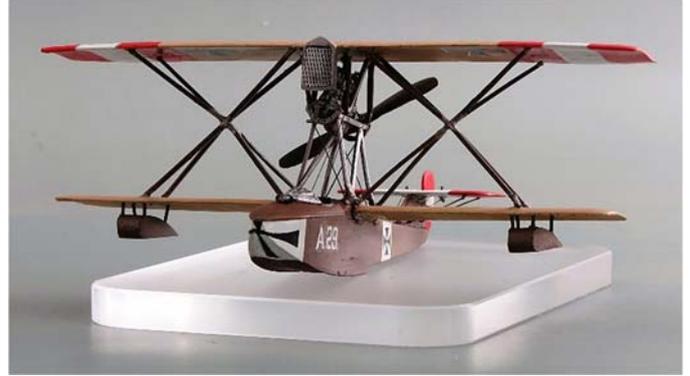


ワケ カタチには理由がある(126)

Shape follows Function
& Taste

～ハンザブランデンブルク CC 戦闘飛行艇



(ハンザブランデンブルク D1 戦闘機と↓)

本機は、オーストラリア・ハンガリー帝国がアドリア海で使用した戦闘飛行艇です。特徴はXをクロスさせたような翼間支柱で、唯一無二なデザインです。ハンザブランデンブルク社はエルンスト・ハインケルが在籍した会社で、彼は同社で単葉の W.29 という傑作水上機を世に出しますが、

このX型支柱は彼の作品ではないように思います(一部、そのように説明している解説がありますが、彼の自伝『嵐の生涯』(フジ出版社)では全く触れていません。自らの業績を誇る彼が触れていない以上、おそらく違うでしょう)。ちなみに、CCは同社の出資者だったカミリオ・カスティリオーニのイニシャルで、さしずめ米国の新型戦闘機に F-47 と名付けるのに似ているかもしれません。この機体は宮崎駿監督のアニメ映画『紅の豚』に、マッキ M5 の敵役として登場します。なお、個人的に、このX型支柱は金沢駅の鼓門(2005年完成)を見る度に思い出す構造で、20年目にしようやく完成させて荷が下りたという作品になりますw。

【模型について】

ポーランドのコロジエ(Choroszy)の1/72のレジンキットです。とても繊細で高品質なキットですが、X型の支柱の組み立てに苦労しました。組立最後にラジエータパーツが欠損しているのに気づき、泣く泣く自作しました(何とかなるものですw)。塗装は『紅の豚』に準じています。同じX型支柱を有するハンザブランデンブルク D1はTOKOのインジェクションキットです。(中川裕幸 2025年9月)

